

## 改訂第3版 はじめに

「見える！わかる！摂食嚥下のすべて 改訂第3版」をお手に取ってください、ありがとうございます。本書は2020年12月末に初版を、2022年6月に改訂第2版を発刊しました。改訂第2版発刊は新型コロナウイルス感染症のパンデミックがようやく収束に向かい始めた時期でした。それから約4年が経過した2026年現在、私たちを取り巻く世界はさらに大きく変化しています。デジタルトランスフォーメーション（DX）が加速し、Googleの「Gemini」やOpenAIの「ChatGPT」に代表されるAI（artificial intelligence：人工知能）が、研究・教育・臨床の現場においても身近な存在となりました。医療の世界においても、「知識をもつこと」だけでなく、「最新の情報をどのように理解し、どう使いこなすか」が、これまで以上に問われる時代に入ったと感じています。

今回、改訂第3版の出版に至ったきっかけとして、以下の3つの理由が挙げられます。

- ①2024年に『嚥下障害診療ガイドライン2024年版』（第4版：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）が6年ぶりに大改訂されたこと
- ②IDDSI（International Dysphagia Diet Standardisation Initiative：国際嚥下食標準化イニシアチブ）第2版の日本語訳が発表されたこと
- ③オーラルフレイルの新たなチェック基準が示されたこと

加えて、初版発刊からの約6年間で、私自身の臨床および研究に関する論文が40編を超えました。日々の診療や研究を通して得られた新しい知見を、できるだけ早く、そして分かりやすい形で読者のみなさまにお届けしたい——その思いが、今回の改訂を後押ししました。DXの波に取り残されないことが求められるのと同様に、ガイドラインや基準、臨床・研究情報を常にアップデートし続けることは、医療者として避けて通れない責務であると考えています。

DXの進展のスピードには到底及びませんが、本書には、「臨床や研究の現場で一歩ずつでも前に進みたい」「同じ知識を共有できる仲間を増やしたい」「嚥下診療の楽しさと奥深さを、少しでも多くの方に伝えたい」という私自身の思いを込めました。本書が、日々摂食嚥下診療に携わるみなさまの一助となれば、これほど嬉しいことはありません。

改訂第3版で追加した主な内容は、記載順に以下の通りです。

- ・頭頸部がんによる嚥下障害の背景
- ・オーラルフレイルのチェック項目
- ・嚥下造影・嚥下内視鏡検査の動画の一部更新
- ・食道運動障害の評価方法
- ・嚥下VR検査の項目の新規作成
- ・嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術に関する説明および図の追加
- ・「気管切開チューブの管理」という新セクションの追加
- ・IDDSI Frameworkと学会分類2021との対応関係

最後に、改訂第3版の発刊にあたり多大なご協力を賜りました株式会社Gakkenの森友紀さん・黒田周作さん、兼岡麻子さん、横山明子さん、ならびに株式会社フードケアの在川一平さん・水谷圭介さんに心より感謝申し上げます。また、初版発刊以来、「見える！わかる！摂食嚥下のすべて」を手に取り、読み続けてくださった多くの読者のみなさまに、この場を借りて深く御礼申し上げます。

2026年2月  
上羽 瑠美